ティーチング・ステートメント

所属 薬学部薬学科
名前 加藤 隆治
作成日 2023 年 2 月 26 日

【責任】

薬学部に所属し、英語・英語教育の観点から教育・研究活動を行なっている。教育活動としては、1～３年生の英語の授業（英語、医療英語 I、II、III、IV、英語コミュニケーション、薬学英語）、並びに卒業研究生の支援を担当している。また、授業以外では薬学部の海外語学研修や TOEIC 関連の自由科目セミナーなども担当している。書道部・リコーダー部・ドイツ語部の顧問、クラス担任、海外交流委員も 24 年度から担当している。

【理念】

理念は大きく分けて３点ある。

最初の２つは学生自らの主体性が大きく関係している。１つ目は、学生本人が主体的に学ぶことで、英語に限らず大学での学びの楽しさを実感してもらいたいということ、２つ目は学生が主体的に行動することで友人や教員との出会いや対話から刺激を受け吸収してもらいたいということである。

中高において英語に興味を失い、学ぶ意欲が薄れている学生が数多く入学しているのが現実である。そのため、基礎的な力を身につけることで、「なんだ、英語って実はそんなに難しくないんだ」という学習の成功体験を得て、学ぶ楽しさを感じてもらいたいと考えている。

授業では、主体的な学びを身につけられるよう毎回の小テストや e-learning などを利用して、英語の基礎力を忍耐強く養成する授業を工夫・実践している。

同時に、「大学には何かある」「大学に来ると楽しいこと待っている」という意識を学生に持ってもらい、大学を最大限に「利用」してもらうことが重要だと考えている。大学には授業・クラス・サークル・部活動などがあり、様々な出会い場があるのが最大の利点である。

学生自らが主体的に出会いを求めることで、多様な人たちと接し交流し視野・知見を広げられるよう、今後も授業やクラス担任、及び部の顧問などを通してサポートを継続していきたい。

三つ目の理念は、英語の学びを学生の将来と関連づけることである。薬剤師の現場において英語が必要とされる場面が増加していることから、就職後も自らの英語力を活用することで所属している組織に大きく貢献することが可能なだけでなく、卒業時の進路の選択肢の幅も広がる利点がある。「自らの薬剤師としての付加価値を高める英語のスキルアップ」に取り組める授業の実践を目指している。このような英語を学ぶ意義や可能性を意識してもらった上で、楽しく英語を学べる場を提供していきたい。

【方針・方法】

上記の理念の実現のため、主として授業において以下のような方針・方法を用いた教育活動を行っている。

「授業方法：自己学習と基礎力向上」

＊予習・復習や小テストになどより適度な負荷をかけつつも、発表や質問をしやすい環境作りやクラス内での話し合いを促すことで授業を活性化させる。

＊基礎力は繰り返しにより身につくものなので、狭い範囲を指定し毎回小テストを行うことで反復練習を行なっている。e-learning も同様で非常に基礎的な力を養成するのに重要なツールとなっている。このような繰り返しの作業を行うことで、理解とスキルアップに繋がるだけでなく、自己学習の癖を身につけてもらう。

＊自作テキスト内容を毎年変更する、または市販テキストを毎年変更することで予習を促す。自作テキストに関しては、内容はより薬学的な内容（ここ数年は薬剤師の仕事内容が書かれた英文を使用している）で学生に興味を持ってもらう工夫をしている。
＊スライドを使用する授業が多いので、講義「スライドは、色使い・階層・アニメーションなどにより学生目線で一目見た時の分かりやすさ・見やすさ・理解しやすさを追求している。また、学生からスライドに関し何らかのレスポンスがあればそれを即取り入れるなど常にブラッシュアップを心がけている。
＊薬学生における英語の必要性・重要性については１年次の最初の授業や、海外語学研修などで何度も強調して伝えるようにしている。また、特に３年次の「薬学英語」においては、英語論文のアブストラクトを読む授業なので、卒業研究や就職後に論文を読むことを想定して、「論文の構成」や「論文の英語」に焦点を当てた授業を行っている。

「学生との対話の重視」
　授業では学生からの発表・発言の機会を多くとることが重要である。そのためにも、学生と教員の間にある心理的バリアをいかにして取り除くかということだけではなく、教員自らが授業に対する姿勢も問われることになる。学生に主体的に反応してもらうためには、学生との普段からの対話が欠かせないので、授業の内外を問わずに学生との対話を心掛けている。
　また、学生同士でのペア、またはグループで議論する時間を設けること、「間違うことは恥ずかしいことではない」ということを繰り返し伝えることで、授業で学生が発表・質問しやすい環境作りに努めている。
　今後も学生との対話を絶やさず、学生が抱く大学・授業・英語などに関する苦手感を取り除くための環境を整えていきたい。

「教師像：ロールモデルと親しみやすさ」
＊教員の親しみやすさを打ち出すことで英語に対する苦手感・拒否感などのハードルを下げる。
＊同時に、身だしなみをいつも整える、事前準備を怠らない、授業時間を守る、学生との約束を守るなど、教員がロールモデルとなるよう自らルール厳守をしている。

【成果・評価】
＊Brains 社のオンラインツールを使い、学生が簡単な問題を繰り返し取り組めるようすることで、学生の基礎力向上がプレテスト・ポストテストで確認することができた。またこのツールは学生からも高好評であった。
＊moodle 上に小テストの結果や解説等をすぐにアップし学生が復習をしやすくした。上記ツールと同様に moodle での復習もアンケートで学生から高評価であった。
＊「薬学英語」では、英語論文に興味を持たせることに一定程度成功したということが授業アンケートから確認できた。

【目標】
＊短期目標：新科目である HUS スタンダード英語で、学生の英語への苦手意識を軽減する。
　　（2024 年度）
＊長期目標：学生に英語のスキルアップが薬剤師の強い味方となることを意識してもらい、英語を学ぶことへの興味を高める。